

第32回（令和7年度第1回） セーフコミュニティ 学校安全対策委員会

《会 議 次 第》

日時：令和7年6月16日(月) 14:00～

場所：久留米市庁舎 17階 会議室

1. 開会

2. 協議事項

- (1) 2024(令和6)年度実績及び2025(令和7)年度取組方針（案）について
- (2) セーフコミュニティの次期国際認証について
- (3) みんなでセーフコミュニティ賞について
- (4) インスタグラムを活用した情報発信について

3. その他

- (1) 令和7年度セーフコミュニティ会議等スケジュール（案）

令和7年5月7日	外傷等動向調査委員会
<u>令和7年6月16日</u>	<u>セーフコミュニティ学校安全対策委員会（第1回）</u>
令和7年7月1日	セーフコミュニティ推進調整会議（1回目）
令和7年7月8日	セーフコミュニティ推進本部会議（1回目）
令和7年7月24日	セーフコミュニティ推進協議会（1回目）
<u>令和7年10月20日</u>	<u>セーフコミュニティ学校安全対策委員会（第2回）</u>
令和7年10月末頃	セーフコミュニティ標語審査会（正副委員長）
令和7年11月頃	セーフコミュニティ推進調整会議（2回目）
令和7年11月頃	セーフコミュニティ推進本部会議（2回目）
令和7年11月頃	セーフコミュニティ推進協議会（2回目）

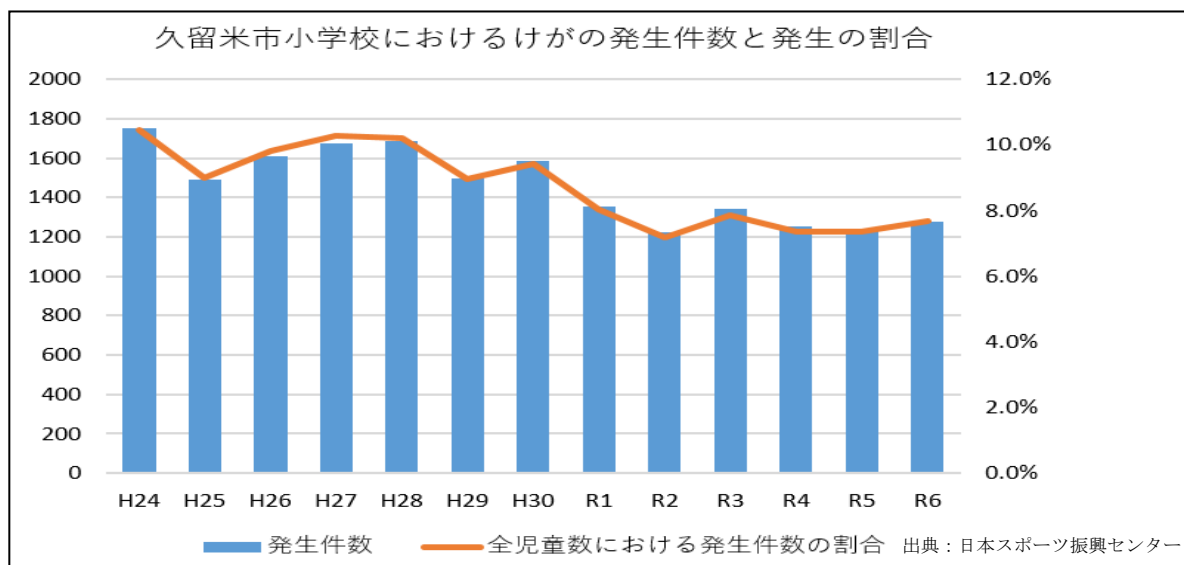
4. 閉会

学校安全対策委員会

重点取り組み項目	No	具体的施策名
学校の安全	3-①	《学校内の安全指導》 校舎内外で安全に過ごす意識付けと実践化を図る取組の実施
	3-②	《学校内の安全指導》 いじめの未然防止・早期発見・早期対応の取組の実施
	3-③	《学校内の安全指導》 火災・地震等の災害から身を守る安全教育の実施
	3-④	《交通安全指導》 ・学校による交通安全教育の実施 ・地域、保護者と連携した交通指導の実施
	3-⑤	《防犯教育の実施》 地域、保護者と連携した児童への防犯教育の実施

①2024(令和6)年度取組実績

ア. 主な成果〈数値で表せるもの〉



イ. 主な成果〈数値で表せないもの〉

子どもたちの安全を守るための取組の増加

・各学校で校内安全マップ、安全啓発ポスター、標語等の作成・掲示 3-①、3-④

ウ. 2024年度で最もアピールできる事例（成果があった、工夫したなど）

全小学校での救命救急講習の実施

「久留米版 PUSH project」という救急救命講習を、久留米大学と連携して行った。全小学校6年生が救命救急講習を修了した。3-①

児童の学校安全に関する意識調査

全小学校を対象に「安全に関するアンケート」を実施した。



エ. 2024 年度に新規・拡充・変更した内容

- ・救命救急講習について、市内小学校 6 年生を対象に実施
久留米大学医学部心臓・血管内科に各学校に出向いていただき、胸骨圧迫と AED の使い方を模擬体験を通して学習している。

オ. 2024 年度に関係機関や団体、市民の主体性や協働性を推進するために実施した取組（関係機関との連携強化や市民啓発等を含む）

- ・久留米市教育委員会からの配布文書に、セーフコミュニティのロゴを入れて普及推進
各学校へ委員会より配布する文書やチラシの一部にセーフコミュニティのロゴを入れることにより、学校、保護者、地域に周知を図っている。

カ. 分野横断的に行っていること

- ・交通安全対策委員会及び警察署と連携した交通安全教室
1 年生に対しては横断歩道の渡り方などの交通ルールについて、3, 4 年生に対しては自転車の乗り方について、運動場に模擬の道路を設置して交通安全教室を実施している。

キ. 取り組みを進める上での課題

けがに関するデータの収集方法

現在は、けがをした時の状況や場所、月別の件数がわかる日本スポーツ振興センターのけがの発生件数と発生の割合のデータを使用している。JISC のアドバイスでは、軽度（擦り傷など）のけがの状況のデータをとるなど、データのとり方を変えると、今後、更に効果的なけがの予防につながるであろうということである。

一部の学校においては、軽度のけがを含めた保健室での対応状況をデータ管理しているため、その活用等について、今後検討する必要がある。

分野横断的な連携

他の対策委員会の取組を把握して、連携できる内容を把握する必要がある。

各団体との連携の強化

学校安全対策委員会内の各団体と情報共有をして、協力できる取組を検討する必要がある。

ク. 見直しや改善を検討したい事項

- ・昨今の自然災害や事件等を鑑み、市内の各学校で現在実施している防災教育や防犯教育などに、他の対策委員会や地域と連携した取り組みができないか検討したい。

②2025(令和7)年度取組方針

具体的施策		2025 年度取り組み方針
3-①	《校内安全教育》 児童会活動による校内安全の取組に関する助言等	<u>校内安全に関する委員会活動の強化</u> ・児童アンケートから、2割程度の児童は「きまりを知っているが、守ることはできていない」と回答している。そこで、児童が学校のきまりを自分事として捉えて、自主的に守ることができるように、児童会活動を中心とした自主的・自治的な活動の推進を図る。
3-②	《いじめの未然防止教育》 いじめの未然防止に関わる教育活動の助言等	<u>いじめの未然防止に関する教育の推進</u> ・児童アンケートから、「いじめはいけないことだと思わない」と回答した児童が 0.7%いる。そこで、「いじめは絶対にしてはいけない」と理解し、行動できるように、人権協連会との連携を図りながら、いじめを許さない教育の更なる推進を図る。
3-③	《防災教育》 火災・地震等の災害から身を守る安全教育の実施に関する助言等	<u>避難訓練での防災対策委員会との連携</u> ・各小学校で実施される避難訓練で、より効果的な訓練が実施できるように、防災対策委員会との連携を目指す。その際、校区との協働が必要な場合は、まちづくり協議会との連携を進める。 <u>久留米版 PUSH project の推進</u> ・児童が主体的に自他の命を守る行動がとれるように、久留米大学と連携して、救命講習会を実施する。その際、学校と地域が共同で学べる方法を検証する。
3-④	《交通安全教育》 地域、保護者と連携した交通安全教育の実施に関する助言等	<u>交通安全教室での交通安全対策委員会との連携</u> ・交通ルールの理解と順守のために、交通安全対策委員会と連携して安全教室を実施する。その際、地域や学校外の人材（交通安全協会、警察）との連携を図る。
3-⑤	《防犯教育》 地域、保護者と連携した児童への防犯教育の実施に関する助言等	<u>安全マップや防犯マップ作成での防犯対策委員会との連携</u> ・交通や犯罪の危険個所に注意したり、不審者に対応したりできるように、各小学校の安全マップや防犯マップ作成を推進し、地域や外部人材（まちづくり連絡協議会、防犯協会、青少年育成協議会、警察）との連携を図る。その際、防犯対策委員会が行う地域環境整備（防犯カメラや防犯灯）について情報提供を行い、セーフコミュニティの取組の周知を図る。 <u>防犯教育の実施呼びかけ</u> ・防犯対策委員会と連携して、防犯教室などの体験的・実践的な防犯教育の推進を図る。

【学校安全】 3-① 《学校内の安全指導》校舎内外で安全に過ごす意識付けと実践化を図る取組の実施

課 題	客観的 課題	けがは「休み時間」が最も多く、校舎内では「体育館」「教室」、校舎外では「運動場」が多い						
	主観的 課題	時期（梅雨や運動会などの行事）によって、注意力が散漫になる傾向がある						
目標		学校でのけがの件数の減少						
実施者・協働者		教職員・児童						
対象者		児童						
実施内容		委員会活動による呼びかけ等の自治的活動の推進						
対策委員会 の関わり		取組に係る情報収集、情報提供、連絡調整、助言						
2024 年度の実績 （活動実績）		自主的・自治的な活動の推進、啓発活動等に係る助言等 （学校の取組例） ・けがの状況報告や保健室利用人数等の集計、グラフ化、掲示等 ・安全マップ、安全啓発ポスター、標語等の作成及び掲示等 など						
（過去 1 年間の 改善点）		学級活動による安全教育の実施 例）外遊びや雨の日の遊び方のルール作り、廊下の歩き方						
（JISC ヒアリング 内容について協 議・反映した点）		校内のけがに関するデータのとり方を変えると、更に効果的な予防につながる。 （重度ではなく、擦り傷などの軽度をとってはどうか。学年やフロアを限定してはどうか。）						
定量的評価 （データによる評価）		内容	単位	2020	2021	2022	2023	2024
活動指標		児童が主体となった活動を実施している 学校の割合	%	100	100	100	100	100
短期評価 （意識・知識など）		校舎内外のルールに対する理解 〔校舎内の安全に関するアンケート〕	%	98	96	98	98	98
中期評価 （態度・行動など）		校舎内外のルールを守る態度 〔校舎内の安全に関するアンケート〕	%	57	58	74	77	77
長期評価 （外傷発生数など）		校舎内外でのけがの割合 （校舎内外のけが件数／市内全児童数） 〔日本スポーツ振興センター災害給付対 象けがが状況〕	%	6.5	7.1	6.6	6.7	6.8
定性的評価 （データでは表せない 現象等を通した評価）		廊下の歩き方のルールを決めたり、雨の日の過ごし方の見直しを図ったりするなど、 学校独自で取り組んだ。						
評価結果の 活用方針		＊アセスメント（外傷等動向調査委員会等による助言や JISC によるヒアリング、定量的・定性的評価などの振り返り）結果をどのように活用するかを記載 JISC のアドバイスから、校内でのけがの予防につながるデータのとり方の改善を検討する。						

【学校安全】3-②《学校内の安全指導》いじめの未然防止・早期発見・早期対応の取組の実施

課題	客観的課題	「いじめはいけないことだとは思わない」児童がいる						
	主観的課題	いじめはいけないことだと理解しているが、加害側に加担する児童がいる						
目標		いじめは絶対に許さないという意識の向上						
実施者・協働者		教職員・人権協連合会・児童						
対象者		児童						
実施内容		いじめを許さない教育活動の推進						
対策委員会の関わり		取組に係る情報収集、情報提供、連絡調整、助言						
2024 年度の実績 (活動実績)		いじめの早期発見・早期対応の取組の推進 (学校の取組例) ・道徳科、学級活動を中心とした全教科でいじめに関する学級指導等(情報モラルを含む) ・相談ポスの広報と活用、定期的な教育相談 ・児童による啓発ポスターの作成・掲示等						
(過去 1 年間の改善点)		啓発活動の推進 例) 相談ポスの広報と活用、児童による啓発ポスターの作成および掲示等						
(JISC ヒアリング内容について協議・反映した点)		地域とともに家庭への啓発活動等を行えるとよい。いじめの認識は学年によって違う(1年と6年では大きく違う)ので、検証方法を変えてはどうか。						
定量的評価 (データによる評価)		内容	単位	2020	2021	2022	2023	2024
活動指標		いじめの未然防止や早期発見等、学校独自の取組を行っている学校の割合	%	100	100	100	100	100
短期評価 (意識・知識など)		いじめについての理解 [各学校のいじめに関するアンケート]	%	100	100	99.4	99.4	99.3
中期評価 (態度・行動など)		いじめをしない態度 [各学校のいじめに関するアンケート]	%	88	88	91.3	91.4	92.1
長期評価 (外傷発生数など)		いじめの解消率 [児童生徒の問題行動に関する調査]	%	78.6	82.7	82.4	77.5	72.7
定性的評価 (データでは表せない現象等を通した評価)		いじめアンケートによる早期発見、早期対応ができた。						
評価結果の活用方針		* アセスメント(外傷等動向調査委員会等による助言や JISC によるヒアリング、定量的・定性的評価などの振り返り)結果をどのように活用するかを記載 JISC のアドバイスから、いじめの未然防止や解決に向けた、学校外の力の活用を検討する。						

【学校安全】 3-③ 《学校内の安全指導》火災・地震等の災害から身を守る安全教育の実施

課題	客観的課題	学校の避難訓練のときに、真剣に参加できていない児童がいる						
	主観的課題	学校と地域が連携した、より実践的な防災訓練になるよう見直しが必要						
目標		緊急時、災害時に自他の命を主体的に守ろうとする児童の増加						
実施者・協働者		教職員・防災対策委員会・久留米大学						
対象者		児童						
実施内容		・実際の災害時を想定した、実践的な避難訓練への援助 ・心肺蘇生に関する講習会の実施						
対策委員会の関わり		・取組に対する助言 ・学校外の団体との連絡、調整						
2024 年度の実績 (活動実績)		学校内外での防災教育の実施、自他の命を守る実践的な学習 (取組例) ・非常時の緊急下校等についての指導及び保護者連絡先の確認等 ・消防署や防災センター等を活用した学習の実施 ・着衣水泳の実施 ・久留米版 PUSH project の実施						
(過去 1 年間の改善点)		自他の命を守ろうとする行動をとれる児童の育成						
(JISC ヒアリング内容について協議・反映した点)		他の対策委員会との連携ができるとより効果的な取組になる。						
定量的評価 (データによる評価)		内容	単位	2020	2021	2022	2023	2024
活動指標		防災に関する内容を計画的に年間指導計画に位置付けている学校の割合	%	100	100	100	100	100
短期評価 (意識・知識など)		災害時の避難の仕方についての理解 [防災に関するアンケート]	%	96	96	98	98	98
中期評価 (態度・行動など)		災害時の避難の仕方を踏まえて避難訓練にのぞむ児童の割合 [防災に関するアンケート]	%	92	92	96	96	96
長期評価 (外傷発生数など)		学校内での災害に不安を感じない児童の割合 [防災に関するアンケート]	%	84	84	90	90	90
定性的評価 (データでは表せない現象等を通した評価)		各学校で、防災の日の取組、防災訓練(避難訓練)を実施できた。						
評価結果の活用方針		＊アセスメント(外傷等動向調査委員会等による助言や JISC によるヒアリング、定量的・定性的評価などの振り返り)結果をどのように活用するかを記載 JISC のアドバイスから、防災対策委員会との情報交換を行う。						

【学校安全】 3ー⑤ 《防犯教育の実施》地域、保護者と連携した児童への防犯教育の実施

課題	客観的課題	校区内で、不審者に出遭う危険がある場所に気をつけていない児童がいる						
	主観的課題	登下校時に不審者に出遭った場合、児童だけで落ち着いて対応することは難しい						
目標		登下校時に不安を感じない児童の割合の向上						
実施者・協働者		児童・まちづくり連絡協議会、防犯協会、青少年育成協議会、警察						
対象者		児童						
実施内容		・不審者対応に対する理解や実際の対応に生かしていこうとする態度の育成を図るために、実践的な防犯教室を実施する。 ・地域の防犯上の危険箇所の理解を深めるために、地域や保護者と連携した校区の危険箇所探検や安全マップづくりなどを行う。						
対策委員会の関わり		防犯教室の実施に対する連携(ゲストティーチャー、体験コーナーの運営)						
2024 年度の実績 (活動実績)		地域と連携した取組、体験的・実践的な防犯教育を実施した。 (取組例) ・学校による防犯パトロールの実施 ・PTAを対象にした防犯関係の講習会等の実施						
(過去 1 年間の改善点)		・体験的、実践的な防犯教室の実施 ・「いかのおすし」認知度向上に向けた指導の日常化と徹底 ・発達段階に応じた具体的場面に応じた指導						
(JISC ヒアリング内容について協議・反映した点)		他の対策委員会との連携ができるとより効果的な取組になる。						
定量的評価 (データによる評価)		内容	単位	2020	2021	2022	2023	2024
活動指標		防犯に関する内容を計画的に年間指導計画に位置付けている学校の割合	%	100	100	100	100	100
短期評価 (意識・知識など)		不審者への対処法に対する理解 [登下校や放課後の安全に関するアンケート]	%	94	91	92	93	83 ※ 1
中期評価 (態度・行動など)		不審者への対処法を実践する態度 [登下校や放課後の安全に関するアンケート]	%	59	59	82	77	78
長期評価 (外傷発生数など)		登下校時に不安を感じない児童の割合 [登下校や放課後の安全に関するアンケート]	%	70	72	81	83	83
定性的評価 (データでは表せない現象等を通した評価)		登下校などの際に、学校外の団体などの協力により、児童の安全を見守った。						
評価結果の活用方針		*アセスメント(外傷等動向調査委員会等による助言や JISC によるヒアリング、定量的・定性的評価などの振り返り)結果をどのように活用するかを記載 JISC のアドバイスから、対策委員会の各団体との協働を検討する。						

※ 1 2024 年度はアンケートの基準を変更している。